

第5次総合計画 中期戦略事業プラン 事務事業評価シート

事業名	平和都市宣言推進事業			事業番号	18-103
事務事業担当	部名	部長名	課名	課等の長	
	市民生活部	齋藤 浩人	市民協働課	杉山 正彦	

計 画 (Plan)					
総合計画体系	安心力	まちづくり目標	2	地域で助け合う安全で安心なまち	
		基本政策	5	暮らしの安心がひろがるまちづくり	
		施策展開の方向	2	一人ひとりが大切にされるまちをつくる	
		施策	18	互いに尊重し合うまちづくりの推進	
予算事業名	平和推進事業費				
事務区分〔選択〕	<input checked="" type="radio"/> 自治事務 <input type="radio"/> 法定受託事務    (選択してください)→			法令上の位置づけ	実施する規定はない
事業開始年度	開始年度	平成25年度以前    ~		終了年度	-
関連法令等	伊勢原市平和都市宣言、伊勢原市平和都市宣言推進事業補助金等交付要綱				
国・県の計画等				計画期間	
関連個別計画				計画期間	
実施の背景 (事業を取りまく環境・市民ニーズ)	「過去の戦禍による尊い犠牲と教えを無にすることなく、平和の意味とその尊さを語り継ぎ、伊勢原市民として、この美しい故郷を次世代に引き継いでいかなければならない。」とする「伊勢原市平和都市宣言」(平成5年12月8日制定)の実現が求められています。				
目的 (何をどうしたいのか)	平和都市宣言に明記した恒久平和の実現と核兵器の廃絶の趣旨を広く啓発することを目的とします。				
主な対象 (誰・何を対象に)	市民及び平和活動団体				
事業内容 (手段、手法など)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市立中学校3年生を対象に平和作文の募集を行い、優秀な成績を修めた者を、平和の旅に派遣します。</li> <li>・平和のつどいを開催し、平和の旅体験発表などを通して、広く市民に平和の意識を啓発します。</li> <li>・戦争を直接知る世代が少なくなるため、体験談を映像化し保存するとともに、平和史料の収集・公開を行います。</li> </ul>				
事業行程	項目	年度			
		28年度	29年度		
	平和作文募集	継続実施	継続実施		
	中学生平和の旅	継続実施	継続実施		
	平和のつどい	継続実施	継続実施		
平和史料収集公開	収集・公開	収集・公開			
目 標	【指標名】	【現状】	年度		
			28年度	29年度	
	平和史料の収集公開状況	調整・収集	収集・公開	収集・公開	



事業実施(Do)へ

## 事業実施 (D○)

<b>事業の「取組方針」</b> (前年度事務事業評価)	・平和史料収集事業における戦争体験インタビュー映像撮影及び史料収集を進めるとともに、平和のつどいででの発表やインターネットを活用した公開を実施していきます。 ・平和意識を後世に継承していくための機会として、「中学生平和の旅」に参加した学生に平和のつどい企画運営委員としての参加を求め、世代を超えた交流の場をつくとともに、時代に合わせた「平和のつどい」の在り方を検討していきます。		
<b>実施方法</b> 〔選択・記入〕	<input type="radio"/> すべて直接実施 <input checked="" type="radio"/> 左記以外		
	<input type="checkbox"/> 業務委託 <input type="checkbox"/> 指定管理	<b>委託先又は指定管理者</b>	
	<input checked="" type="checkbox"/> 補助金	<b>補助先</b>	中学生ヒロシマ平和の旅派遣団
	<input checked="" type="checkbox"/> その他	<b>具体的内容</b>	平和のつどい企画運営委員会、東海大学文学部広報メディア学科水島研究室(協働事業)
<b>実施結果</b>	<b>項目</b>	<b>年度</b>	
		<b>28年度</b>	<b>29年度</b>
	平和作文募集	継続実施	継続実施
	中学生平和の旅	継続実施	継続実施
	平和のつどい	継続実施	継続実施
	平和史料収集公開	収集・公開	収集・公開
<b>実施した取組の内容</b>	・平和作文応募(821点)優秀賞8点、佳作8点 ・中学生平和の旅(平和作文優秀者8人、事務局1人、随行教諭2人派遣) ・平和のつどいの開催(来場・参加者数322人) ・平和史料収集(映像)これまでに撮影した10人分の映像の総集編を作成		
<b>目標の達成状況</b>	<b>【指標名】</b>	<b>【現状】</b>	<b>年度</b>
			<b>28年度</b>
			<b>29年度</b>
	平和史料の収集公開状況	調整・収集	収集・公開

<b>コスト</b>	<b>年度</b>	<b>28年度 実績</b>				<b>29年度 実績</b>				
	<b>内訳</b>	<b>事業費合計(a)</b>	726	千円	759	千円				
		<b>国県支出金 ①</b>	0	千円	0	千円				
		<b>地方債 ②</b>	0	千円	0	千円				
		<b>その他特財 ③</b>	0	千円	0	千円				
		<b>一般財源 (a)-①-②-③</b>	726	千円	759	千円				
	<b>国県支出金の内容</b>									
	<b>その他特財の内容</b>	<b>受益者負担</b>	<input type="radio"/> 有 <input checked="" type="radio"/> 無		<b>前回の改定時期</b>					
		<b>その他</b>								
	<b>人件費</b>	<b>正規職員</b>	0.50	人	4,325	千円	0.50	人	4,365	千円
		<b>その他の職員</b>	0.00	人	0	千円	0.00	人	0	千円
		<b>人件費合計(b)</b>	0.50	人	4,325	千円	0.50	人	4,365	千円
	<b>トータルコスト (a)+(b)</b>		5,051	千円	5,124	千円				
	<b>単位当たりコスト</b>	<b>対象数</b>	<b>定義</b>	平和推進事業参加者		単位	平和推進事業参加者		単位	
			<b>対象数</b>	1,043	人	1,143	人			
<b>総事業費 / 対象数</b>		4,843	円	4,483	円					

評 価 (Check)				
進捗状況 〔選択・記入〕	<input checked="" type="radio"/> 計画どおり (A) <input type="radio"/> 概ね計画どおり (B) <input type="radio"/> 計画どおり進捗せず (C)	A	左判断理由	<ul style="list-style-type: none"> <li>・戦中・戦後の史料収集を市民に呼びかけ、実施することができました。収集した史料及び市教育委員会所蔵の史料の展示、撮影した戦争体験インタビュー映像の上映を「平和のつどい」で実施し、来場者に戦争の記憶の継承や平和希求の意識を啓発することができました。</li> </ul>
実施水準 〔選択・記入〕	<input checked="" type="radio"/> 他市より高い水準で実施 (A) <input type="radio"/> 他市と同水準で実施 (B) <input type="radio"/> 他市より低い水準で実施 (C) <input type="radio"/> 一律に比較できない事業	A	他都市の事業内容等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・近隣3市(秦野市、平塚市、厚木市)と同等の事業を行っています。</li> <li>・東海大学との協働により事業を行っています。</li> </ul>
有効性 〔選択・記入〕	<input checked="" type="radio"/> 高い (A) <input type="radio"/> 普通 (B) <input type="radio"/> 低い (C)	A	左判断理由	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平和のつどいにおいて実体験のインタビューを収録した映像を上映することで、参加者に平和希求の意識が啓発されています。</li> <li>・平和史料収集事業において、戦争体験者の記憶を映像に残すことで、平和希求の思いを次世代へ継承することに努めました。</li> </ul>
効率性 〔選択・記入〕	<input checked="" type="radio"/> 効率的に実施されている (A) <input type="radio"/> 改善の余地がある (B) <input type="radio"/> 抜本的な改善が必要である (C)	A	左判断理由	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市民や平和活動団体、東海大学との協働により、事業に関する予算の支出を抑えています。</li> </ul>


 取組の改善 (Action)へ

取組内容の改善 (Action)	
事業推進上の課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・太平洋戦争から70年以上が経過し、戦争体験者が高齢化するなかで、実体験を語るができる人が少なくなっています。そのため、平和史料収集事業における戦争体験者の記憶の映像収集が急がれています。</li> <li>・平和意識を後世に継承していくため、「平和のつどい」等のイベントに多くの若い世代に参加を求め、関心を持ってもらう必要があります。</li> </ul>
次年度以降の取組の方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平和史料収集事業における戦争体験インタビュー映像撮影及び史料収集を進めるとともに、平和のつどいでの発表やインターネット等を活用した公開を実施していきます。</li> <li>・平和意識を後世に継承していくための機会として、「中学生平和の旅」に参加した学生に平和のつどい企画運営委員としての参加を求め、世代を超えた交流の場をつくとともに、時代に合わせた「平和のつどい」の在り方を検討していきます。</li> </ul>
所管部長による総評	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「平和のつどい」等の平和推進事業により市民の意識高揚につながる効果的な事業の推進がなされています。</li> <li>・戦争体験インタビュー映像を平和史料として撮影、保存及び公開をする事業は、平和意識の次代への継承に意義あるものと考えています。</li> <li>・今後も若い世代に参加を求め、関心を持ってもらう働きかけをし、多くの市民に平和意識を継承していくことが重要です。</li> </ul>